

平成26年度教育事業実施報告

- 1 教育事業名 「無人島アドベンチャーキャンプ2014」
～ 感動体験！無人島で始まる冒険の夏！ ～
- 2 ねらい 家庭、学校、地域では体験できない無人島でのサバイバル生活（電気・水道・ガス、風呂・トイレ、テレビ・ラジオ・携帯電話のない不便さ）を乗り越えることで、たくましさ、やさしさ、仲間との連帯を実感し、自己肯定感を高め積極的に活動するリーダーを養成する事を目的とする。
さらに、近年重要視されている防災教育の面から、こうした自然体験から災害時に対応する能力を身につける事も併せたプログラムとする。
- 3 期 日 平成26年 7月28日（月）～7月29日（火） 1泊2日
※当初予定は7月28日～8月3日までの6泊7日
台風接近のため計画を短縮して実施
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家・渡嘉敷村「儀志布島」
- 5 募集定員 24名
- 6 参加人数 24名（応募者数206名：小学生162名・中学生44名）
- 7 参加者内訳 小学生12名、中学生12名（男性12名、女性12名）
（本島内20名、離島4名 ※県外は応募無し）
- 8 カウンセラー 大城敏氏（パトリングガバ漕店代表） 山下智郁（港川小学校教諭）
照屋寛信（手作り遊び工房ふぁーかんだー代表）
平良繁幸（石垣青少年の家専門職員）
具志堅大周（糸満青少年の家専門職員）
與儀滝太（名護青少年の家職員）
- 9 実施プログラム

月日(曜)	活 動 内 容						宿 泊
	朝食	午 前	昼 食	午 後	夕 食	日没後	
7月28日 (月)		フェリーにて 泊港より渡嘉敷へ オープニング オリエンテーション	弁 当	装備品パッキング 船で無人島へ移動 無人島上陸 ビバーク用テント 作り スノーケリング 講習 無人島内探検	非常 食	班活動 班長会 スタッフミーティ ング 就寝（班毎）	儀 志 布 島
7月29日 (火)	非常 食	スノーケリング講習 荒天のため撤収準備 船にて渡嘉敷島へ 移動	非常 食	台風接近のため予 定を全て中止。 フェリーにて沖縄 本島へ移動。 泊港にて エンディング 解散			

10 事業の様子



非常食のお味はいかが？



穴を掘って寝ています・・・なぜ？



シートにくるまって寝てみました！



スノーケリング！何に出会えたかな？



無人島探検だー！



慶良間ブルーの海でスノーケリング！

11 エピソード (参加者の声)

- ・短かったけど学校以外の友達ができたことがうれしかったです。探検したり、砂浜でシート1枚で寝たり、雨は大変だったけどドキドキしながらがんばった。
- ・思いっきり無人島生活をしたかった。夜は大雨が降って大変だったけどこんな経験はあまりできる事じゃないのでまた来年も無人島に行きたい。
- ・海でスノーケリングしたり、缶詰パンを食べたり、組み立てたトイレに入ったり、初めてのことばかりだったけど楽しかった。魚を捕ったりとか、もっといろいろやってみたい。
- ・無人島では食べ物と水があまりなかったのでお腹がすいた。食べ物のありがたさがわかった。
- ・泳ぐのは苦手だったけどがんばってスノーケリングに挑戦したので少し慣れた。海がきれいで感動した。

12 担当者所見

今回の「無人島アドベンチャーキャンプ」は台風12号の影響により、子どもたちの安全を最優先に考え6泊7日の予定を1泊2日の日程に変更して実施することになった。

初日は台風の影響を受ける前に無人島に上陸し、少しでも無人島体験をしてもらいたいとの願いから、必要最低限の食料と用具、機材等を船に積み込み渡嘉志久ビーチを出航した。

夕日が傾きかけてくる頃に活動予定地の儀志布島に全員上陸することができた。すぐに本部テントや各班ごとの野営地の設置に取りかかり、経験豊富なスタッフや学生ボランティアの支援を受けながら仲間と協力し何とか暗くなる前に作業を完了することができた。

その晩の食事は非常食として準備していた「缶詰パン」と「魚肉ソーセージ」だけであったが各班とも僅かなヘッドライトの明かりの中で今日出会ったばかりの新しい仲間と少ない食材を大事そうに味わいながら食べている様子が見えた。限られた環境の中で「同じ釜の飯を食う」という心境を感じることが出来たのではないかと考える。また、就寝後には激しい雨になり、それぞれがブルーシート1枚で風雨に耐えながら一夜を過ごしたことは無人島ならではの貴重な体験となったであろう。

最終日も短い時間の中ではあったが無人島内の探検やスノーケリングを行うことができた。台風が接近してくる限られた時間の中で、スタッフもどこで何が出来るかを考え、その条件の中で子どもたちが出来る活動を見つけ出し、進めることが出来たのではないかと考えるが、やはり無人島キャンプの成果(子どもたちの変容等)は1週間程度の時間の中で様々なプログラムを仲間とともにやり遂げていく過程の中で生まれてくるものである。今回のキャンプを楽しみにしていた子どもたち、また、キャンプの成果に期待して送り出していただいた保護者の皆様の期待にお答えすることが出来なかったことに対してお詫び申し上げます。来年こそは台風にあたりませんように・・・。